

平成14年度 瀬棚町普通会計 バランスシートを公表します！

瀬棚町は、現在の会計では表に出てこない試算・負債のストック情報を多角的に分析し、財政状況を判断するため、このたび「バランスシート」を作成してみましたので皆さんにお知らせします。

「バランスシート」 （貸借対照表）とは…

バランスシートは、一般的に「貸借対照表」ともいわれています。主に民間企業がその決算や財務の状況を表す共通の「物差し」として作成しており、所有する資産の内容や資産を取得するための借入金などといった将来の負担、そして、その差である正味資産がどれくらいあるかを説明したもので財務の運用状況が一目でわかる表のことです。

返済義務のある負債がいくらか、返済義務のない正味資産がいくらかを右側で表示し、その調達した資金の運用状況を左側に表示するため必ず左右が一致することからバランスシートと呼ばれています。

作成上の基本事項

総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」に従って作成しております。統一基準に基づいて作成することにより、ほかの地方公共団体との比較が可能となります。

【ポイント】

① 作成対象会計は普通会計とし、基本的に用いているデータ資料は毎年度総務省に報告している指定統計「地方財政状況調査（通称「決算統計」）」とする。なお、データが電算記録保存されている昭和44年度以降の調査を用いています。

② 資産の当初設定金額は取得原価主義（取得に要した実際の支出額）としています。

③ 減価償却は、1 定額法で行うこととし、2 耐用年数の設定は国の統一基準により費目ごとにまとめて決定する方法で作成しています。なお、土地については消耗しないことから減価償却は行いません。

④ 毎年度の最終日を基準日としています。（出納整理期間の出納は基準日までに終了したものとみなしています。）

1 定額法とは、減価償却の計上額が毎会計年度一定となる方法です。

【例】 公営住宅を1億円で建設した場合

住宅の耐用年数は40年とされているので1年当たりの減価償却は「1億円÷40年＝250万円」となり、毎年度250万円を均等に償却することにより40年後にはバランスシートの計上額がゼロとなる仕組みです。

2 有形固定資産の減価償却に用いる耐用年数表

区 分	耐用年数	区 分	耐用年数	区 分	耐用年数
1 総務費		(5) 漁港	50	ア 街路	15
(1) 庁舎など	50	(6) 農業農村整備	20	イ 都市下水路	20
(2) そのほか	25	(7) 海岸保全	50	ウ 区画整理	40
2 民生費		(8) そのほか	25	エ 公園	40
(1) 保育所	30	6 商工費	25	オ そのほか	25
(2) そのほか	25	7 土木費		(8) 住宅	40
3 衛生費	25	(1) 道路	15	(9) 空港	25
4 労働費	25	(2) 橋りょう	60	(10) そのほか	25
5 農林水産業費		(3) 河川	50	8 消防費	
(1) 造林	25	(4) 砂防	50	(1) 庁舎	50
(2) 林道	15	(5) 海岸保全	50	(2) そのほか	10
(3) 治山	30	(6) 港湾	50	9 教育費	50
(4) 砂防	50	(7) 都市計画		10 そのほか	25

以上のことを踏まえて作成したバランスシートが次の表です。

何事もバランス
が大切だね!!



平成14年度 瀬棚町バランスシート (平成15年3月31日現在)

借方		貸方	
[資産の部]		[負債の部]	
①有形固定資産		①固定負債	
1 総務費	10億9,716万円	1 地方債	51億1,138万円
2 民生費	9億5,170万円	2 債務負担行為	746万円
3 衛生費	1億8,372万円	3 退職給与引当金	7億4,459万円
4 労働費	1,085万円	固定負債合計	58億6,343万円
5 農林水産業費	20億917万円	②流動負債	
6 商工費	4億3,688万円	1 翌年度償還予定額	6億2,274万円
7 土木費	70億9,034万円	2 翌年度繰上充用金	
8 消防費	495万円	流動負債合計	6億2,274万円
9 教育費	28億2,418万円	負債合計 64億8,617万円	
10 そのほか	87万円	[正味資産の部]	
有形固定資産合計	146億982万円	1 国庫支出金	20億9,962万円
(うち土地	5億5,496万円)	2 道支出金	14億151万円
②投資など		3 一般財源など	54億9,041万円
1 投資及び出資金	2億141万円	正味資産合計	89億9,154万円
2 貸付金	2,145万円	負債・正味資産合計 154億7,771万円	
3 基金	2億5,055万円		
投資など合計	4億7,341万円		
③流動資産			
1 現金・預金	3億7,823万円		
2 未収金	1,625万円		
流動資産合計	3億9,448万円		
資産合計	154億7,771万円		

やすらぎ館や瀬棚保育所などを建設するため国などから借りているお金で、1年以上の期間をおいて返すお金です。

年度末に全職員が普通退職すると仮定した場合に全職員に支払わなければならない退職金総額です。

国などから借りているお金で、1年以内に返さなければならぬお金です。

資産を形成するために使ったお金のうち、国や道からの補助金、税金などの総額です。これらのお金は返済する義務がないため正味資産(純資産)とします。

土地、建物など一会計年度を超えて行政サービスを提供するために使用される資産のうち、有形であるもの。土地を除いては減価償却しています。

榎山漁業振興協会出せん金、榎山ふるさと市町村圏基金出資金や災害援護基金などの貸付金があります。

「社会福祉基金」や「人材育成基金」など年度間で流動性の低い基金です。

「財政調整基金」、「減債基金」など年度間で流動性の高い基金です。

「地方税や使用料などのうちまだ収入されていないお金です。

↓ もっと分かりやすく例えると...

町一世帯あたりのバランスシート (平成15年3月31日現在 1,141世帯)	
借方 = 資産	貸方 = 負債+純資産
有形固定資産 = マイホームや土地、車など 1,280万円	負債 = マイホームなどのローン残高 569万円
投資など = 定期預金など 42万円	正味資産 = 資産形成のための自己資金 788万円
流動資産 = 現金や普通預金 35万円	
計 1,357万円	計 1,357万円





「バランスシート」からわかること

ここでは、総務省の報告書による財務分析など、いくつかご紹介いたします。

1 社会資本形成の世代間負担比率

公共施設などの社会資本（資産）の形成が、どの世代の負担に多く依存しているのかを表し、次の①が②より多いことが望ましいと言われます。

①国・道支出金や一般財源などによりこれまでの世代がすでに負担した金額の割合。（参考：この比率は企業会計における「自己資本比率」に相当し、一般的に50%以上が目安とされています。）

$$\frac{\text{正味資産合計}}{\text{資産合計}} \times 100 = \frac{89\text{億}9,154\text{万円}}{154\text{億}7,771\text{万円}} \times 100 = 58.1\%$$

②これからの世代に負担してもらうこととなる金額の割合。

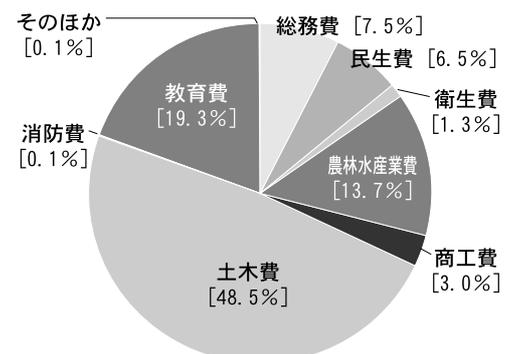
$$\frac{\text{負債合計}}{\text{資産合計}} \times 100 = \frac{64\text{億}8,617\text{万円}}{154\text{億}7,771\text{万円}} \times 100 = 41.9\%$$

2 有形固定資産の行政目的別割合

次の表とグラフは、瀬棚町の有形固定資産の行政目的別割合を表したものであり、行政分野ごとの資産形成の比重を把握することができます。

瀬棚町では、土木費が48.5%、教育費が19.3%と高い割合であり、重点的に整備してきたことがわかります。

目的	主なもの	金額	割合
総務費	庁舎など	10億9,716万円	7.5%
民生費	保育所、やすらぎ館など	9億5,170万円	6.5%
衛生費	保健センターなど	1億8,372万円	1.3%
農林水産業費	町民センター、漁村センター、茂津多林道など	20億917万円	13.7%
商工費	三本杉海水浴場休憩所など	4億3,688万円	3.0%
土木費	道路、港湾、公営住宅、定住者住宅など	70億9,034万円	48.5%
消防費	災害備蓄用備品購入など	495万円	0.1%
教育費	小中高等学校など	28億2,418万円	19.3%
その他	共済住宅購入費など	1,172万円	0.1%
合計		146億982万円	100.0%



参考 有形固定資産のうち主な施設の状況

名称	目的別	取得年度	取得価格	減価償却累計額	残存価格
やすらぎ館	民生費	H8～H9	6億6,144万円	1億6,723万円	4億9,421万円
瀬棚保育所	民生費	H12～H13	1億4,802万円	987万円	1億3,815万円
茂津多林道	農林水産業費	H9～H12	7億1,461万円	2億1,823万円	4億9,638万円
瀬棚港マリンタウン	土木費	S62～H14	30億5,581万円	5億6,982万円	24億8,599万円
馬場川小学校	教育費	H6～H7	3億7,194万円	6,351万円	3億843万円

① 予算額対資産総額

$$\frac{\text{資産合計}}{\text{歳入合計}} = \frac{154\text{億}7,771\text{万円}}{35\text{億}3,059\text{万円}} = 4.38 \text{ 年}$$

② 予算総額対正味資産額

$$\frac{\text{正味資産合計}}{\text{歳入合計}} = \frac{89\text{億}9,154\text{万円}}{35\text{億}3,059\text{万円}} = 2.55 \text{ 年}$$

①、②の歳入合計は「決算統計」数値であり、町議会に提出された決算認定の金額ではありません。

③ 予算額対資産比率
 次の予算額対資産総額についてですが、この「予算対資産比率」は、ストックである資産が何年分の歳入に相当するかを表し、この比率が高いほど社会資本の整備に重点がおかれていたこととなります。
 また、「予算対正味資産額」は、これまでの世代による社会資本形成（正味資産）が、何年分の歳入に相当するかを表します。

平成14年度 瀬棚町バランスシート（町民1人あたり）
 平成15年3月31日現在人口2,759人

勘定科目	町民1人あたりの金額	勘定科目	町民1人あたりの金額
[資産の部]		[負債の部]	
① 有形固定資産	529万5,332円	① 固定負債	
		1 地方債	185万2,620円
		2 債務負担行為	2,705円
		3 退職給与引当金	26万9,877円
		固定負債合計	212万5,202円
② 投資など		② 流動負債	
1 投資及び出資金	7万3,001円	6 翌年度償還予定額	76万1,007円
2 貸付金	7,773円	7 翌年度繰上充用金	0円
3 基金	9万815円	流動負債合計	22万5,712円
投資など合計	17万1,589円	負債合計	235万914円
③ 流動資産		[正味資産の部]	
1 現金・預金	13万7,088円	1 国庫支出金	76万7円
2 未収金	5,889円	2 道支出金	50万7,976円
流動資産合計	14万2,977円	3 一般財源など	199万1円
		正味資産合計	325万8,984円
資産合計	560万9,898円	負債・正味資産合計	560万9,898円

④ 町民一人あたりの「バランスシート」

通常のバランスシートの数値を人口で割って、一人あたりの額を出すことにより、ほかの自治体と簡単な比較ができます。

瀬棚町一人あたりの資産額は561万円と算出されました。総務省がまとめた平成12年度における「町村平均（506町村）248万円」と比較して多いといえます。



「バランスシート」について少しでも理解いただけただしょうか？

今後もできるだけ分かりやすく町民の皆さんに情報を提供していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

【担当：財政税務課財政係 古畑・稲船】